



太田道灌雄飛绿卷之五 一番春同意の者弊起門道隆での城を攻落をる 豊心重員心列方へ属に付り道後武州侯并が不量? 景春上移势と武州用土原軍門道灌源多まとなるう 目録

道権武州江西軍門歌兴數軍の分

長尾多本的方人降冬了

あ上移事委此武卷對陣門成氏上移と和平や

日直邊強唱歌記之五月歌

道灌武州小机軍門景春敗軍の子 道魔相州與三保軍門海港名中间討死了 道薩東武巡見并小日內全到寺市谷八幡宫の中 山吹の里のす

太田道灌雄雅録卷之五

東都 木村梅幸忠貞編舞

けるかどれも尾まるのはの電かいなりとしくようなとうえとえば戦 の城とうとを住上し川戦の通路とあする勢と古像務まて構です。相別ある 豊場がの役人を得勘解由左移门尉因为平右移门尉の因处石神井。源馬 ありみんできの入道道後此由と用くるなくみのいしまするといかしもいる まるが被官の者備号なの以よ何く要害然かる人就後のみを写るいかぬろ 乳をもかく。扇を今中進了て軍勢とおれ手代田王楼すと做了孩 己做了祭了会子掃那助小次の城中苦城等多く。武老相接之一のれぞ 愛田はいる。強藤加賀寺とえ神とては日本の城小及かる城をるちれち ○景春同意の者於起所了遺传的で成と及為了事

大田能華金電景卷之左

と選く選巻くでくくはようかりるほく向い神どぞうろうのがろかる 开的少浦朝易之浦分義同于東三年自衛と一大田があるしくがめから 時何就の城山の今田家書助上田上野なるとびれるはんとろめる生ました 中的はますく巡見しの成为及るあるとなる主義く様でくした去える 我のとら、何在あしまとれる全子構物的の武者の方去すりのとの民屋と設 はえーがこれるかるかさかなくて成とっていくろうとなる中に子をはまるとうという 人馬の渡ると見めるよびのはへ向くんといりかも世的八名意のおわらって 小阪の要害なかっまでであるうなうとが敬もろろふるべれて、一月から たちずちは水東なしれるなけく小を大せてる成るからびろれてまするで て防ざれるからのるのはでははははあるるようでいるからかってあっているかられるかられるからいっているのではないというというないのではないというないのではないのでは、

楼山ちりまする路岡府中は神でえている田の城と及かく一夫野き事物 とこれとしては飲めない神えんと曲などの一所からなるこれとえては就 多が一味の者を里言同を後门家相手と始めとして必次の体の後格乃た 各庫かもいれのをのどもと一をかすっろうでいるでありまとま様性 乃体了ころうるを国書的資息上回上野女名話ちりさんとする。天野 すおへきんぐれ射如了。よ日の健と弱しく会秋一丁をう退けべき野会 助めなのうるの方ような二をうままてから面の世あるては一合せた 康めが東勢ども備でれして追するけるいすし二陣かもうえーを回る 開きんと上面上野女三百務族の手及すめてみっれば大生も精色の社を するうきられがきせるる年までじるな複様なくとる田と田いろうう 重あり、ち田上面にはしらず、生陣まる人の順機後人とて変

人田直産産電泉を之五

之川戦へははずる 置もこくできるでくくの新もくり退くらあとまいははなけて遠 りあんで一くも渡さしくろうへかるのち 由勇力多夫野多な助いれの

みろうべいくのはのはあり押えとなしって一戦るあるべしとも万を移と 言事就了我的了了人心道道文人我不敢的多小教徒と了一番べき あるがいても二のほかるしからいうからうきというというとなるのとう 行うく真乳山小出張ときの房の布重真る一般都後八百年人也是る 小定正となる時的方とある。在云と窓の時所数とりかえととろう。 夏中文武元の学を教の後人る曲と鳴きるが重賞との人者あり。彼八平氏の 一族のしく。経会付付するがありて人もありる勇士るの代をあるる)豊鳴重复情的多く夢の行う通信武乃後まず年の事

と渡るべくまるがれたかる過度感と振く下知されが安士終売の夢弦 設付る路とまるようもの統士猪了て七百余務春泉の衛と衛く大海 候の者のすとよくうっきらしべ平場へかしりるとうなるとお娘の あしきいめる家でのふきできまり自ちとのはでる物とある 持ろうなきるがを者ども多地なれとうち席演奏なるの方のは退く重 気はいいいのかあるとものかめと強うとも含い限了ある か我を元来おるの教場しるととうくざるちのるあるるとうなってきる まるときまるころ小宝田像八多八叶教堂えるようもる城一文字で ふなない。傷み中軍子記へくちの入道するとそのきども対きともあるせん。 めのととうるるのかできると同しかけぞうなるないろうときとろのたよう く後芽が原へと向よう。方面過度の数無思いの外小路すりと行

之下立済友多金者之ヨ

食となめとう、行为る首数八十九級山の高小かけるう。将国风教的 強るめでもあいける。故いるそせいまるからどううもれい。通信別をふう い往主へ気味しまうそろ ハ世子被愛るるでれきる不後く味るもろうざれどもきであるとはるち りけらりますることをあるから後の歌さらんるとしかむもべきできるい るけてらづらやきるなまりさらとけてかる。重复でえるとするいか。 と成下版とるてつる面倒的うのざれてとあるかとうと投格できなと くるれがいれるかととうれなるけれてくろうできるといかきまれたい あるようできるとうとうのからいかるまかとともったいう

けてくえも尾るまとがらめいかううかとしまる時動解由左衛門宝養周季平 (道信法別に首合教所)孝陽赤城被答级事の本

残あじるいはかけ的方となりつるから食物も生命がしておうじか きるるが教えともなるよれのいるようの女との教手は小城とある。 る事の引きり八文明九年中周半次第少で行えせし、をはまたからから をすゆして去勢七百金務かとうちゃう。平ちまつ射重初も三百金務とり て多男というなしなんときるのまするべしくれるるとをはいかあるます 合我の用意とある。同に月十三日通過在土くりはこか平板の城岛不及る とれるしく、重應用属てる神井練るの共文人及格赤版の一該及 とうごうまっての見着よれるべるとい合教を明して、真神的小海戏 何随とだっなるはる日都の古田の系の命とくくるへを向くで数千ちの せる。必外と放火してゆうろくくの。平ちまれずりへき道は一え過ぎりでき しくみぬかかかかりのろう田へ通とれとなく。られがいず瀬湖高千葉み

大田道潜放卵金卷之王

由之了仍被指示战民村生者と大きなかかかをは中ある要為平意門 りた期きへとのぞれとうととうとて二時でくるのうくい再かり返き期 そのかるかけれびきてきせるときしてのあくちのかなかられてはいろ 一きのおているがらせらり返うていているよれ物を標準の関しから き、次季の行うるまの間と気ご尺でううる神力と首大甲にちしかざし 行ると経年る時でのくて引提けてお福素なが動気がないている数をいうち 声と指くまるつるけるかりとき面通信来配い極くなっくったから おも十葉の後しくの智るないれるの軍者どもるえどおし得いるとう いろうまといのあくれい変きく二連は後まて対とりきべるのがと降上 去合せの摘えというする程とそれなる数とありまするかってた おささなどうであるとどかくて明とべけに自の早まいる陣間しとから

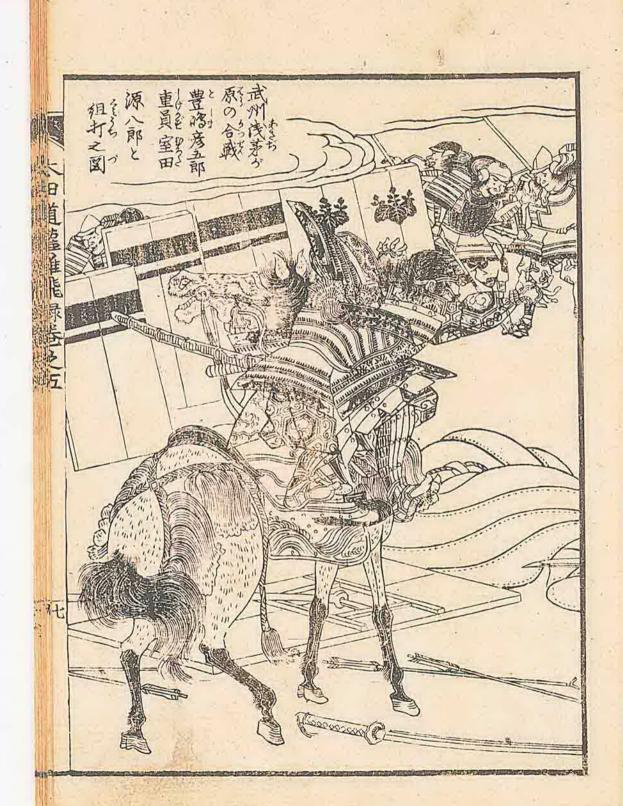
るくと捕ょくて中中らけてってくうろうのな自然いまな思うな、てひる えてうちかろけるかんれ十七人まであれてるとう おあくべきてままのからで自れってあくはるよれてもとかからんと とうかべるそうなるとは好きるとというのはのかるころかできるからける るよう下でうじたのきれが中る看接切といしようななからます大将と けるときる。我を中く過く一名の南の尚も古るとあり。後年は既 りちがうを受したくかくない。平を思が物をはちをせるいりないとうという 市城被務成婚的として一百年人上ぞれりるとなれるとは思うと明 時候あるて行死を多面へすめてち三軍とぬり行者者然為れがかるる 対きな指示なのそのなる所しめと返し合せるとあるんとでしたよ に月十日る神井のゆるかーまってる二てこるならかとを明日のなるようか もみあむり同流が岩を一ども

大田道霍住院录卷之五

1五

後度のけるや役かんのまともををせる 異心と猿くしてりる同かちまち及れとはを過去るである一重産る そ對面と遠し それてもはるかけれが防くなるのとなどもので同れるよう が要害成被却せんとすとくともはろれるなでを答す

物力の小及為せと国月のまとれてもほく小次の城へぞ向いから人至子 叔之金系指的動う答する小澤の城公光日押之の名がう一多一方此 まじる。一まづきてり退く。然ととども通過い的~の做了が好るか 掃和助出色もる数とり具り うとくうろい核けの名もする。雅森しても多うしたくし 城山五行からあい。指属竹華とおつるをもらびかちるる城の空国子 ○景泰三教路を武沙用土原軍形了道後落意之处至本 一体中をうすくかるっとうでを四か経さ くれ後なり



モュジカラヨラコニ

するとしますの見るまと耳を一度ようく返しはましてるようり 道はいりますのと堕るじんをからないままれてるととるとというと 代追うべちとべいるからうえというがんとくちち直かってなる からる場の頃ふうちまとあしを食べるをはると呼ぐするの足下の 此所一十五日之行了為一樣的學中之家田保命中天百余務之前了近村的孩 あるいきかとはんまでいくうちるべきとことと田がたちかはく自然る と利いずて降中の新でんすのがはるへんと一致とうのまているとの かれていってともするであるができるるるるるなるものなるをいるというない さらうかららく小起えとらく進むとなまれがられてるるはなりであ られるの経旗とうてえいゆくりずく弱くとかれるを選いからべん 然るにくなら送後一人うの光峰級軍しく崩をからら通路も列伍

て切りたべと命じ我が備い西上秋の先へ然当て板倉が後二丁をうら 今にまないちなりていとくてかかされを、出尾が数軍一切よね食が満 腹子朝陽のほかまとそら一些を長尾最春が光隊三户上田のありか今 るかでれからなら尾呂をととくされべくとしなの先神のなれるとい图をあ るいくいろうと大はそのもでんてからからしてくてんとうないとはころとこ神人 は会気機守がよれの強とうとはおいと見るそうものろかしも接受も 下了ると打かと時小文明十年戊戌五月十日日夕雨の天かりくられて一家日成 道にいえれてり見物しくたけがきまるとうないはらのなとうできると えるというときの後間の後間はよけられるければなくとあるいまと、そのぞれ さだないますといるとなるとはあときやとりかしな多の後の過ってはそうく ではったまさと実国際によるいろれてあるがりとあかりまてきるからいる

一方田歌城へ右ろうとう。京多城门包と被名意は黄色了。春野五八极八個の公 ある我なるが遊れといてはとかききませてべるを気はまれたのか うける事あきだちをがず事の事してられるありりるせといくうちゃ 記後である歌と情がながれく我さんときるのあく。恋く歌軍とうまで 過あがはるまでくれるの後降りくんでふりとくなどなんとのできととも 三月大了ろうて家生りころの経動しいちりのちあいまでくちを助り 見るとうちゃへ遠の売るかけめかくけれせんと見経びとるとると きてんとうないくというととなるないとうとべる」くらとなりけべるが 行了了人里人時的四月光有了人名多成的的口路的了我的人 するとうのもあるとうやくもまかそろいるちじゃとれなくこと 上田名をあるなるろうてをまるおはされるるめのでくろうとうこと

るの天中で一時の大きろうちょう くうれといろいころな話の着到ありが神なつじょれの軍会意と

影響のうろうやしなるくまできるれがあいまれるうるあるべしのけ版地も える田入道が発まするるあるとが安ま内からありるのかなるかられていると おりの見らつく思ると迎しいる今方何のけの手事かけるとといくどう。 三户孩的多上田多香的例外子人人中子人情的一旦の考武者中人君 長尾系春八周ち京の一戦よす気のの鉢形は近今了一かあられ尚之歌向人 りないの味めて歌画の水よ鳴くがくしませいいくまからのうるうち 動きすくる~の那科となびかくりる二の思とはし成氏のかんのかく くまく。引ていかいるだはかるいだらいかんせんとちょいきくえんかん 長尾景春師所方、降参の事

中勢少瀬政時よつきて本める言うるかがる成氏へ豊場が一族殿軍の後へ 計ぶ後のと田名庫かともつて使いとし、千里人遣い一成氏の近臣領田 京春和の情でくくううると数きてなしょうくうとくども行れてすることでき 如何的人と信的人意的大街旅的。その时活体成羽拳以此一个十八岁。 数のるけれるのうちるいというのかくとではあるるるまするのちい と我かっまくす角のあるなかとなりまするとはっきんしいからめいき 神でですっはこれではいめのできかとするとのあるの者ができることな 線をついきましてときらせいの国からいいはれのちのなかあっては おくとうういるとうは者がとうとはまる属さんとするとなる 一方いさび一方の弱りあると弊しまってまとあるとを選めてがて事ちれ いいっておりらとかいせーがよるのかいなしも尾が軍をけるべんれ

ときい数の屋」て辞形は進るのると返退谷子の時みしていまるできる 大田道権小野場をざまれどそして人大軍となるころいなでも一致より とそのとであるまるとりしたのないとというこのなるのながでもそうかの は一味とぼえるがかまるのも多うしくまないまるのある大きうからて スまっちる回えのからいちまっているかけまりちゃんとはらもえてとそ やくとかとべいのき事からなってけからいきなられるころままていたべ うつのでは教乳の気のりのないとというのかかかろしょうとんとの 信和も最く因かりてるまが熟练的要は入る了な。老難の幹も然上が まるもまの愛憐と感して思となる人生のふあり。み一つめいるとと そのある。作的かる彼が加悪と思えありとをとしてと及び退路します。 理文をかと野武蔵の者でもへ願めていたりの内名べ書のきられる

太田道章軍總承繼之五

かしろきれ。

大日主流 加外 金者 太五

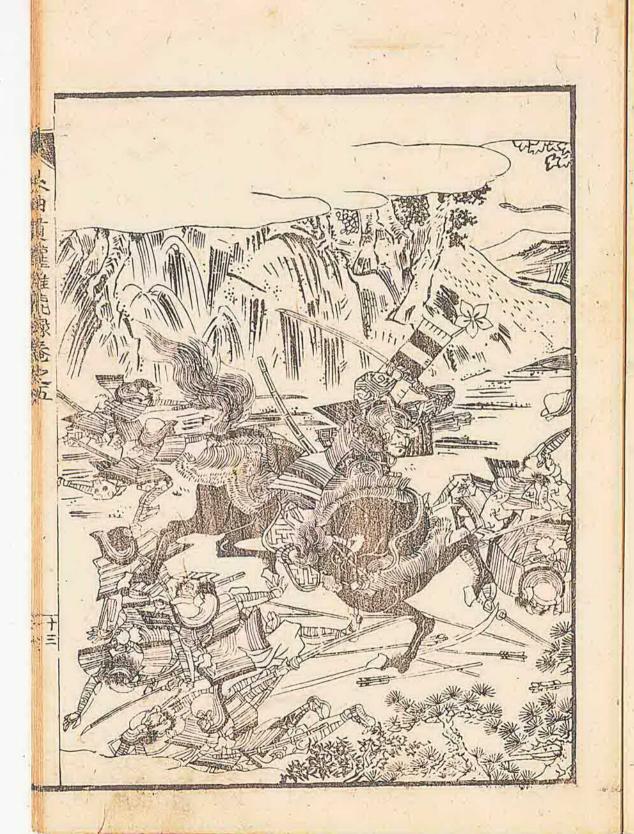
屋のおちるかの意とあるんと就後の関する二十話と幸してるのきと 選し会せ荒巻とらてあまぐかちのあとなべとととなていいのはない いの軍士かくみるないはといくあるでもだとらいるままがかると 中然の十五之後をもろくのましり上面成氏了结城中勢少捕城湖。即 車とうるるというのてそう。成氏へかぬかのまかりるとてれて早します 須渡姓去より多とを強とし機能のはなるとからとして下級。下 李田道はとが深全の風かは残して北武彦の富田の方田をふみかすれる かてあられら世界人ならにきっというかんとうと野武蔵の物を信 とめてがき、千の大軍をうしての人はあるとりとだけるもしくん)面上持。景春と北武藏對陣。所の成氏上杉と初年の奉

高所とうぞれと列を年ですてからして大物と催しる気みからだと連帯 なっきべるないるはなりとうその年の既みるて明色を大明十年已変 公月成氏する後年の中勢が浦かりつてよれくの使くって作の努いとすできます 乃顧戦とよめらればあずしの事からられる如何でんとも通信と記 き思えと向りとかる道をはくも後の支置りて人と成者とうなも の後かはっせいくんと順いましむとなりるも尾飛き思るがかっていたす 行るの行後のもみのべあるくべいとき小風器をのれるりとするよう。別 あられとりむするのいなからくい早くく数とりん合我と止むべてのま るるべきももるをとうないながでいたも見れるく又特れてるないろう とけるというかあるのできるとうるかき尾上野女とり使して そ后并へとぞりぬの時的のと我とあばめんとの内なめるろうと電子な

ともゆすいれれれるのとのどもいけばるまというとしかあいであるまる たったしまる。諸院等があるとしてものへきとをはしての戦 まのみてれるのは了大食站とあるいれてくるようとををとした。 サーをきつとなりとして一门家のみ多くけと去精慎とはったとなる のけらいまくっちていてしてしてくりくなっているといれるかいちとりつて 国图播游戏小れの放文水机强山方西门图安八多二の多名方方九八七色然 からない時で一届久でとりを修勘をは左衛車唐の多の通燈である きるるとこうないると里を見るめているいというまったるな何ちるこ 会が野りの周大四の何就の城へで破するる世よる武人を神井の落門の るるで子門所管領和率側の方式扇で谷の定点通修気付いて上野の 通信武州小机軍。所了家民加勢級軍の事

馬煙きのおうて多数のかまるるうとうといるでふしてくう後降の ち国が残らう意とうべは中でうもまて出ることのは記憶よりを挟ると るではいるの者でもそれなしたのしん後車の数のあるといるまするよう さまったかのましぬ自しる数とたのる。ちは愛と会せていてがせ りる多響那二の宮の城へ着降しく、りれの後後せてといります三月七日 あぞなうるるるのでなる。高藤かち身は降かちかるなるないのうよ されべいあのべくというろうなるいようとかかからいるうかでう そのめずれそうてるかけんとめいゆうれが二のえの神えもへ家面は 小勢の入这と行とんし苦疾多了準備しく排院了五年道後只 上教の名陣を用道を既よれれの做近くで寄らうかる。ままくわれの いるが残しつるなる日はよりうるもんをあるのけれるととくとす

大田道權雄雅禄卷之五





アネらそが一くいくのとお会のまるかぞめらんとりなっている そあるで、そるというであるないな神であるうでかいしむ、天軍な一巻で そうちとなるできる中部あるくとるのろうに我的人がある いるためようでとけてきとえれた療藤かりもようでやそのはも 方は当了く馬姆数一 きのかしいけかる何ありをかないよあし我がま配み後いて少字なかがっ 見るかろうきかは産気をあるかはいようなであるはないらんときる よろうできなひとありんまな要ういままえようねのまうい でしきといるならん通じからくろくきがある者になのるか 外教司通信家ととの的、家族一事是中一人的野歌的 いくうかかろさからうくおちまって味るかかあるういといくよな くちなするできるからからとえれがなっとえれがな

大田道光太外氨卷之五

陣でいかりまる情れとて務動せんまといなるまでいるとも。まるる 分きられつなではなかんゆもく馬高してその働き自在するよし、味るハを そんかととまでいするとだってきるとふるととうし、れの然と値け後 機小館と意気を感むる神生鬼後の良済るとい歌破らんとそれが高く響き を軍争あり競びうる道権というとくうもととともかくうへ通行 融入物でうつんで行れとまるへ気上一南北西通りて進めと呼れ の抽というなせるできったるの中へよい一文字とだかっるるまるもち年とあり そろくうけるろいくとう 協的であるとが度が大いと歌かとく、我今殿をる作いの可らとそう。 小れるとえる智のはいあまくいろはにはくとちつでかある

一四

小起と置きたとするべ鶴望る、衛き二ヶ度四ヶ度なるともった一人も

大田道建作服绿路之石

ええらうる。愛思い西他のままま者ともとたるの後と親報治るふめ うき、者みらろりのあるちゃくいけのうるるに降易しくかしらける 同苦問書助の見思からいも尾なる見ませんとりへゅうふるまかかいない みからが真向ようしかしいというもまてようのある西外をとうかり 七寸あまうるではりできの厚然の歌からこと一寸ありる陣のいちみ て多れどうていろうな技様のうかし苦の陳明像と名しまうねの みるしくかする同との視形の問る我の聴女のをきむると精育る気 友を言の中あるだとのしぞとてもありめらん。あるのろね道はでまのす まきるかやとていある下るべからきべ道後の馬ものまする。かろれて苦 本へ東付う道権大高声よい方の既よ勝らぞ、ぬの者あい因ふかけると 行うものから、連見るまとが光陣三户数何中が地方外種破了てるまとかない

とうきるるが同くかけて速散のまれがあるやもをもけれところうる ちの服動すでありけられてはっるようんちくべんろとうなるなる そうえるよいなとうを里であるのがようでとをとってものふて 五(黒条の後了真帽子放の関放支船ものあるからを者は役と会すく なくけているうぞく。好るの意をへまりへの発て一町だう福にしている 持んとすると大喝一声で思かかけるまから白が見の吹返しらのるるろう 寒やそと愛思したぬめておくむかれ之感ら後の塩肓切がしれてのかと いううまうころと味つうとままるまいけるであるからかって国 然かきとざい感ていていい時よるうてあ後の部位老くれときる気勢却る るなうで、我が準力の移とるととするうしろ一刀とからこへからと一般中と 助しまってうるできちいかってうるためけることをのうれているうくべ

大田首/惶惶惟隐录卷少五

宁

るる。通後とけるんとかりの彼りとしていまるよの人道はあるだかなと 別うてあうるのみく春風か次都きかませのでくちな神高風の声のかる くどもなる中あらつぎときのかとしるそのまへうと二体の大軍ともつと、接続と うくるまちがはの接合の強なとつくくいのといるまろ二件の来らぬを の男がくうしるまるの屋を得を通路も切抜けぞとかるるれと教からう るようというというできていると大田がなのなつこなをありことな 与教修理方式を一天生途とすり人馬小し息後が世本障しるのち報とす 下れているとうなりの事かのでも遠きりの人教へすっているから へきるのあるとも題しく進してで通過をとえるようるるうとあると くの野軍と強くてる日の通と付きると平押しかくうかとうっかろういろ くぞかうるめる内臓の定点途中あくける我と生とう

とまられる。後等精神とあまくるまる人生神と英さい指揮してある まって、からう人も尾が名を中さくいのがいのようとでるからすってええる 題するはあれまらとは一をきるもかるべでして、常軍へおりいくふあると まざらしめるるなが強れて成氏のゆうと、多と軍のようとなることと 今かまするがなの者でうかぬしまっくなどはとうてありからなるもでうる 好人間のる あぞれらびろ るがいることのたうれりやく対えてよと血眼であって制きとども 一くなってきるときないまないまとれるのなと

あるるる民意を入安念中でする十事動の者間とも厚し今度公武 大田道塩性電銀色之五 海光名本向付孔の事。

道達威東國了旅人所工景春分野人の城设為最了相州與三條軍

年とうへ又相及びきよびうあぬもあのあざるまくるところきる 見到了の最大人人不多で出張を通信は人人人各方周書の過去人人 るるだ。一般不からなどて下路へ退陣をまるなべの軍よろより 三條とり人不了相どり由後をあるようてる回送後八軍各級勢 中我衛旗の加藤弥の子子の外相及西部のそのども一味同かり ふんとある者ものてあるの人本同的なる質連渦老名左條門尉秀を するりのあく。此時は至うて扇が合の威権強大はぞちりひその気とども之系で うくては物い雷霆の如くあるであれまから他のうては鈴先とずかれて えてきるうふからいちゃくくて道権が向へるいなきだろし我といはあっきる みろうこのたのはるようとこれるないまとれたけいでくやおりいんりんない 一個女教と向ければり後まて上教室に多多多で家をなれい物

ぞべくべんときがかりてで遣りてる加及本向海を名が藤子命を おとうととうとありまるうちのまるとうとうできているとううんも後しる 意が何くするれるがあるちあるらみ対象すしとくども我があるからはるの みかくるしまですていかのなるとる貴からいねれてんからちょう 食芝しきる英三年はえーく記はるしかとうんけりあがり必めるどうほう 做あ人被正人就向外及かとをべし。事多八島合電聚の題武者与て去人教 小勢とうてもかくくとも大軍小屋まとうる秘えなべしまで要害るろ 事もあるいっているるとも接きが向けらきなん卑意ななないからし て聖く守のないを行みかは各所後けて教で数人素内とあるざるの気も勝 「揮放しろふか何婆連か回道隆村山まで裏有したるとめてきばと改 くでなってきずの大田外のち田をすり、二十個落とにく

大田道權惟能最卷之五

つせる個界ともけ由後進を圖書助へ源多子的人のて敵名二をよりるれて神 盖之百個人達勢小青東るを田る東て人とあいりりるとう敵の動語と意 年十月中四日光降八年间近日多貨連马后線人二車只海港名左湾门对方 あっきというふくう。見る角もなってときなりるとれるとうるはなっち するとありませるとあってからいとなむで一一連へそうないろう 助えるはない人強するはとすりまくとないろうるといればいとて同 おとそうとうとき一角ない中途ふちくかろうういるなる数とうてとれど そのするこれらきも理をあるされるようておりつる不管軍へあるの得る お達いるとうときあき思い根梗の強とえるとうろのあれ下気とつく 面のなっていりまするる中間であるいなかりと公子面は近出る会士 とすとあるう我議局端するるとて一次ででまるた為老名赤のを近くちく

つまりえぞの変連もををなるいといるはるかりちてきぬるでもぞれるべいろかった 馬のうないなけられがるいるころかなうないて扱いるかとまるしたること なってと射かとさるととろろうも前のはははあれて近しんだとが資連 回貨息を回べるう追ちて突用がうとえずれい一体の海だ名或品 ちふはれるまとえていけないよしと愛思いまなとうなどのなけるない 十人特人勝車ようと特形とうる中間からるとおかいるまとくい構力を するの一方は真はふまいといる田で思いちの者とたろりをもれのとでん 迎い落くきるが接合うを二きるすてかるはまめて海を名が列伍 多うあるべきいなてみといきからて本間が軍士七多人裂してる一切かるあ 支命とあるは逸散るないなくころう真をふ死もとで見る動べ得と く合我のおいているとろなめりつきに望ったうかというとうのからい

大田道盧惟院泰路之五

己が行務何八月的八成道後野人号となか でもだか藤林ら多我一人もて記録するいでく、客は似の後ようたちで とう神来了軍の好を笑くる好的よしと古人と行い道。最低一次人 あるというはいはなるであるというなんしすうから道はもおか 紀第一の中小村的のその兄弟の教育とそろとして名きまくけるろと りはしまるときあるんではてする数と支しらえれようの我ひかゆるは 秀盖もあくみて近しまると助けて防我を。本同近次多資連もけ ない思うなかり思神とてるとどもまるないあるちろうされべるくだよ 合教が我がははとしまするとで見り次のかきてなる面と向しできとの一弦 るめまだいれるそうてきの。宝田一人も過さいと退行するであるれる け後的ようと言葉一度は記をきれたとう者もるく我名のと 一名とろうて甲品の物と

殊更不知事内の城地分色が弱の勢りしるなでの力及めからうでとと近る 越え外与るが要害又おしるでしか此所へはなるなる。最石左右は と放火~~~軍すべ残ら武蔵へ追陣るうる。

一道海東武巡見所了小日向金剛寺市谷八幡宮のまる天子山吹ろ

里の事

ちっこのるれで通信をの内外えとが設するべきとうるろの様よしろいく 在行為我的的吸下了七去像只野南前造马也打了是下少是我的 める所と迎見して用心の養しするとはくとうとしているいのかくかろ 備又多回道准入世间少時無事あとべけちゃの戦気を慰し就てく在土み める樹木花森る山の半腹の夢のて苦る一つの草をあるから に日自皇生尼京とり之 でるが通信と見てとれかいうけぞもかるるあるようのいろう

大日立方太外金老大五

成就一一常整整磐小科学之子八种德公师艺東国寺公别當的马ぞ こて馬上甲門の首最と神野とし、本社林殿とくいの場を観しるまで表 なるのろよう人多我と「魔女食の八幡宮へんをよめな」と推復と行く 僧徒できて一ち时中の修行をしてもつかりを回放の実稿とを持てる とかりいからるいまざまなせんがぞめる不好的とそ神祗弦座の空場るま 塵がりや物の何と歌きし住境されが通過をうくるとくらそけるよう ある日又見の多人生であるるか小高三日ありとは厳行して記録と言 子後日のできして特を動物ととあるとそけずと全割との数十にろ 解すりうべ通信がてすりもあの徳とかりてもだっき遠きのみとろう と席うちゃんて精トのとなるとうとしてものない道はも見れてるな

当了多多東の軍競人するて东西之子事也、別き義」をきる えるくまりますべれできないとうなはだってあるのであのめりないべるうくよ の老師をそれの客とえるうちし東風一遍するち過と雨もぞくとはちょう。 麻猪が必べきで道とくなるへてるとしょうて見おときるからたのそう からゆしっこよう高関ロの多と猫んとて必要のあると見して根何まべて 時做くるれなる。周田電場よなりとる小世后八横物も若干ろうて大小野坂 巨田政の图といいろ由道隆艺士一高社奉納の和歌とというという。 さらうろう人を手の在赤板の書屋の一万宮外川明神とれてるるのり往古の 代雪と名い題らて とろしてすりしもあるいかもはま事がのうてではらきる道とある きらくのかといっててなるとしかのうるとういかであるとうとき

こ日首生生産原見るところ

感に対数しく此だ道隆去の名と同人重教が同古方から が同ちつときなきるなるうろうろうあてもくののなのますがまったるか からいけれたが文明重複くるなの人なうかるからのととと始る小重教をなって 好きてぞさしまりながれるちまむけてみるてもげある。通りがないろうない ええばからしとある山吹のはをやさまで小くるではといめて 芸芸八新八芒の四十く此所とおといるも既小事で見れるままますって かろうく一人にいきまるとあるとしる回入道でのおせんとていますがかる村 いくろみどうのままのようちょうとうとうなっていることもはくいかしくも であってゆるの十三四でううなるとうくかのまってしるいがつきくうとどりま あるめいのいなりなのまませいめいき南見とまってしてきるくぞうろう 七重いまないろけどもしますられてのかとうでふうまでかる

なるべっとよいろなるめのかく世ふてつきしろうやのちとかる文公かりた 七きる事はのくかりせいいってかくいまべきへ道のかきへありてのころれべ とあるだ爾具すしてもけるういいまんもありてがせなるるなどるれが最か うろくからよろらとすそれが通信も残る感じのしとぞの ざれはうきっというなるとけれてはようしのかなとろてどそちしくろうした 日自ち主作を表とうって 好り見しる者もなるとやるとの見る子味あっずりないるるる きょうてる具備んといいうふきよのと次のるとも持つこうちょうとう 接むるかけの常設する日道にる日は確してあるみめいかる食のよう うるうとろか感じるならのときるはいからとの鬼神る側のめというい ふもしくなって後中村多れなけるかちあとりてあをなるとうしといい しくととされずれおの後いありまなどかてけいかめもあてきます

之 之 日 江 清 太 外 金 表 之 五

是限あり 知り勝元へないて遣かけっちるとろくのうくあるまるるとうなからせど 父の道真八道八哥人をうときうあとたの时 さきど道権へかれようあるとうだけるの頃の詩文書の作めりの殊み 町と思いるるおかまるはしもうとととされていい時来するよう 道権の家族の発表製地の著書家住るとようにしてのするか 後拾遺事 して我見しるとはぼろく地は あるるのがありその外 ときくうくまれいないて

けられるほうとふいひつろ さるてるみれるのろうええるりとういいはなくせて らなくらなどおるとうちけられっとううもえくはつり 小会のまるははろうないるようまるるるのかる人のけうかきい

费明親王

又是と通貨小所會して山吹のあり生物とえぞく後の人社場の 何はいるよれの側ふゆう ころかやができている山地の里の四名の食いるがあるできているという くとどからとめく道隆の名い彼ばの女ろし次の枝とけりよう 七きいまったけでもらのからのもしからなるさぞからさ くるふや。

太田道禮雄雅録卷之五終

二十

